

# えひめ

## Contents

特集

- ～その1～ **事業現場リポート**  
(松山港外港地区多目的国際ターミナル整備事業)
- ～その2～ **みなとを活用した魅力ある地域づくり**  
(みなとオアシス制度)

●ニュース&トピックス

- ▼八幡浜港振興ビジョン（八幡浜市策定）の実現に向けて
- ▼「松山空港エプロンルーフ社会実験」のとりのくみ

●コラム「えひめのみなと素描」

スケッチ④ ～三島川之江港～ 四国中央市長 井原 巧氏

●コーストライン・アラカルト

～幕末の四賢侯と称された伊達宗城の城下～  
宇和島市教育委員会文化課よりご紹介



港湾整備のご紹介 ～松山港外港地区の岸壁はどのように造られるか～

当事務所が行っている水深13mの岸壁整備についてご紹介します。外港地区の岸壁はケーソンを沈めて造ります。ケーソン（鉄筋コンクリートの箱）を陸上で製作したあと、巨大なクレーンが付いた船で運んで、岸壁が造られます。

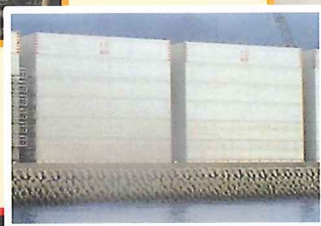
また、松山港は港湾と空港の距離が日本一近い港であるため、ケーソンの据付け作業は夜間作業になります。今年度はケーソンを4函（60m）据付けました。投資効果の早期発現に向けて、来年度以降も鋭意事業を進めていきます。



▲鉄筋の加工・組立の様子。ケーソン1函あたり約60tの鉄筋が使われています。

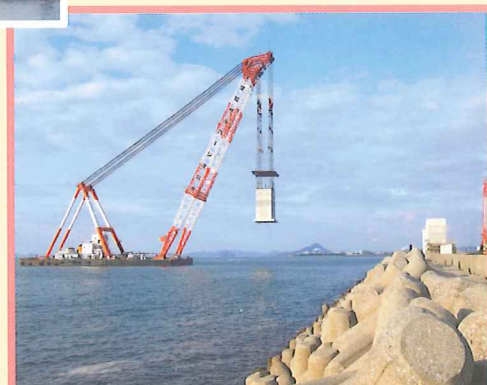


▲コンクリートを流し込んで、徐々にケーソンが出来上がっていきます。写真奥に見えるのが、完成したケーソン。



▲外港地区は空港との距離が近いのでケーソン据付けは夜間作業になります。

ケーソン  
(イメージ)  
8m×15m×16m  
の巨大な箱



▲完成したケーソンをクレーンの付いた船（起重機船）で運びます。クレーンの高さは海面から100mあります。

ケーソン製作  
場所(伊予市)

松山港外港地区



● 工事現場の見学は随時受け付けております。見学希望の方は企画調整課までご連絡下さい。



## みなとオアシスってなに？

**み**なとオアシスとは、港や海岸にある、海浜・旅客ターミナル・広場などの「みなと」の施設やスペースを利用して、地元住民や観光客など多くの人々が利用できる交流拠点です。

みなとは、古くから地域の生活拠点として、人々の暮らしや産業の発展に貢献し、地域独自の文化や歴史を育んできました。そういったみなとが生み出す財産を利用した魅力ある地域づくりが、現在、四国を始め全国各地で進められています。

このみなとオアシスは、平成15年11月に、中国地方整備局と四国地方整備局が制度化しました。制度化され4年が経過した今、市町村や地元住民の方々がみなとまちづくりの主役として活躍しており、地域のニーズを反映した特色あるみなとオアシスが次々と誕生しています。

### アクセスマップ



海はワシの宝やけん



やわたはま海鮮朝市イメージキャラクター  
濱爺 (はまじい)

## みなとオアシスの基本コンセプト

- ①港と海を地域活性化に生かす
- ②住民参加により実現・運営する
- ③既存施設や事業を有機的に結びつけ、有効活用する
- ④地域の個性を生かす



## 主な支援制度

- 登録証の交付
- 全国への情報発信支援
- みなとの利用に対する規制緩和
- 他部局、関連機構との調整 など

## えひめのみなとオアシスはどこにある？

**現**在、愛媛県内では2ヶ所（八幡浜、伯方）がみなとオアシスに登録されています。簡単に紹介してみましょう。

### 愛媛県八幡浜市

★八幡浜港みなとオアシス（平成17年8月登録）

**そ**の昔、「伊予の大阪」と謳われた八幡浜市の玄関口、八幡浜港。現在も年間50万人が同港を利用しており、フェリーターミナルややわたはま海鮮朝市会場（旧魚市場）などの拠点施設を中心に、八幡浜港みなとまちづくり協議会がみなとオアシスを運営しています。四国随一の規模を誇る魚市場や、九州との旅客航路を有するなど、ヒト・モノの交流拠点として発展しています。

## みなとオアシス周辺のみどころ

### ※やわたはま海鮮朝市

毎月、第2日曜の午前10時から開催されている地元の海鮮朝市。新鮮な魚介類を市価より安く入手でき、毎回約5,000人の来場者ににぎわう。



### 商都八幡浜を象徴する町並み散策

市内中心部や保内地区には、その昔、西瀬戸の交易・産業の基地として繁栄していた面影を残す建物が多く残っている。（旧東洋紡績赤レンガ倉庫など）



### 特色ある食文化

昔から地元名物として知られる、「じゃこ天」や、最近、人気急上昇中の「八幡浜ちゃんぼん」など、水産業の町を象徴する食文化が育っている。



※やわたはま海鮮朝市 …… 港湾施設の用地造成に伴い、20年度以降、代替地への移転及び開催頻度が年2回程度となる予定。（平成20年2月28日現在）



アクセスマップ



ボク、  
はまんぼう!



イメージキャラクター  
はまんぼう

愛媛県今治市

★みなとオアシス伯方 (平成16年8月登録)

**風** 光明麗な西瀬戸に浮かぶ島、伯方島。島内の枝越港や伯方S.Cパークなどの拠点施設を中心に、地元の住民懇談会がみなとオアシスを運営しています。伯方・大島大橋が望める絶好のロケーションを備える伯方ビーチもみなとオアシス内にあり、海のレジャーには欠かせない存在です。アクセス面でも、しまなみ海道のICが隣接しており、気軽に立ち寄ることができます。

みなとオアシス周辺のみどころ

伯方ビーチ

道の駅伯方S.Cパークに隣接している人口海浜。美しい海とロケーションを目当てに、多くの海水浴客が訪れる。



はまんぼう市

島内イベントで開催されている産直市。地元の農作物、海産物、加工品など島の特産品が多く集まる。(年数回、不定期開催)



愛の地産地消レストラン

島内の野菜や魚介類にこだわったメニューを取り揃えた地元の女性達によるレストラン。(はまんぼう定食 要予約 1,000円)



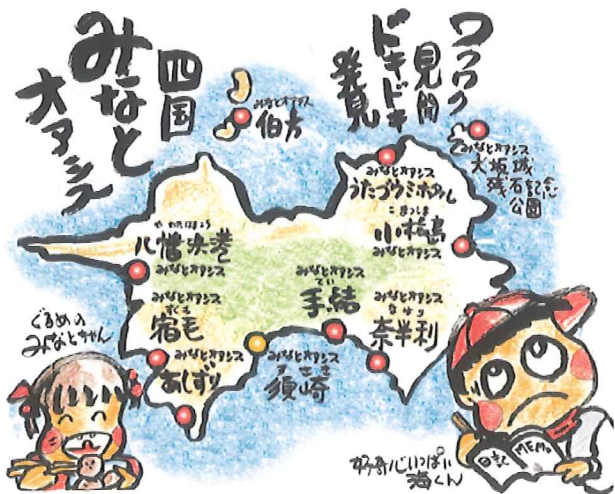
★みなとオアシス増加中

**宇** 和島港や三瓶港など南予の港を中心に、将来のみなとオアシス登録に向け、準備が始まっているなど、愛媛県内各港でみなとのにぎわいづくりが活発化しています。

みなとオアシスの数が、地域づくりの力のバロメーターです。四国地方整備局では、登録証の交付や全国への情報発信支援など、各種公的支援を行っていますので、興味のある団体など、遠慮なくお近くの港湾・空港整備事務所までご連絡下さい。

元気なみなとの情報はこちら

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/useful/oasys/index.htm>



うみとそらのマメ知識

～先人の知恵 順中逆西【じゅんちゅうぎゃくせい】～

古くから海の難所として知られる来島海峡で導入されている、世界唯一の航法。海上交通ルールは右側通行が常識ですが、強い潮流の来島海峡においては、航路がほぼ直線の中水道(右図参照)は潮の流れに沿い、大きく湾曲している西水道(右図参照)は潮に逆らいゆっくり進むのが常識となっています。明治・大正時代に地元航海者の航法として普及していたと言われ、今に引き継がれることで、来島海峡の安全が守られています。





## 八幡浜港振興ビジョン(八幡浜市策定)の実現に向けて

### 八幡浜港みなとまちづくり協議会・WG合同会議が開催される

八幡浜港振興ビジョンの実現に向け、みなとを核とした地域活性化について協議会活動を行っている八幡浜港みなとまちづくり協議会とそのワーキンググループの合同会議が、1月24日(木)に八幡浜市内のホテルで開催されました。

会議の中で、同協議会とワーキンググループが過去5年間にわたり実施した社会実験やアンケート調査等の結果をとりまとめ、ビジョンの実現やみなとを中心とする地域再生に向けた提言内容について審議が行われました。審議において承認された本提言は、2月13日に八幡浜市長へ提出されており、活動の成果が地域へ還元されることが期待されます。

**【主な提言内容】** ▽市民による八幡浜の魅力の認識 ▽交流人口拡大プランの実施 ▽人に優しい施設整備 ▽安全・安心のまちづくり ▽地元との協働 ▽域外との活動交流 ▽まちづくり推進体制の維持

★八幡浜港振興ビジョン完成予想図は、コースラインえひめ7号「コラム『えひめのみなと素描』」に掲載しております。

### 八幡浜港港湾施設用地造成工事安全祈願祭が開催される

2月1日(金)、八幡浜港沖新田において、造成工事の安全祈願祭が行われました。当所職員も出席し、厳かな雰囲気の中、神事が執り行われました。市長からは、「土地の少ない八幡浜にとって、貴重な財産となる」との挨拶があり、用地造成の早期完了が期待されます。



▲協議会活動にご尽力されている谷本会長



▲八幡浜市長を始めとする関係者による忌鋤土入の儀



▲ダンプカーによる土砂投入

## 「松山空港エプロンルーフ社会実験」のとりくみ

松山空港エプロンルーフ社会実験は、平成19年4月1日に、日本では初めてとなるエプロンルーフの運用開始と併せて実施されています。

このエプロンルーフは、ターミナルビルから飛行機までの通り道となるもので、伸縮可能な屋根付きの通路となっています。これにより、搭乗客が安全にエプロン上を通ることができるようになり、雨天の日には傘をささずに搭乗できるようになっています。

社会実験は約3年間の予定で、大阪航空局、松山空港ビル株式会社、航空各社の協力を得て実施しており、1年目の今年度は、搭乗客にアンケートを取ったり、航空各社に使い勝手を伺ったりしています。

アンケートでは、「搭乗までが安全である」「雨天時や日差しの強い日に助かった」という好意的なご意見や、「もう少し風を通してほしい」「人が多い時は狭く感じる」などのご要望・ご意見を頂きました。

このアンケート結果については、これから詳しく分析して、今後の空港整備に役立てていく予定です。

### えひめの蛇口をひねると水ではなく、ポンジュースが出る!?

(1月4日~6日にかけて松山空港ビルで開催された、「旬の味覚フェア」の一環で実施されました。)



▲エプロンルーフを通る利用客。より安全に搭乗可能となりました。



▲搭乗橋を利用できない、小型機への搭乗の際に活躍するエプロンルーフ





四国中央市長  
井原 巧氏

プロフィール

- 1982年 愛媛県立三島高校卒
- 1986年 専修大学経営学部卒
- 1995年 愛媛県議会議員(3期) (~2004年)
- 2004年 四国中央市長 就任 (現在1期目)

港づくりは未来のまちづくり

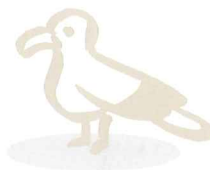
私たちのまち四国中央市は、四国最大級の規模を誇る港「三島川之江港」、潤沢な水を擁する3つのダム、そして大きく整備された道路などの社会資本が整っています。特に、原料や燃料などのほとんどを輸入に頼る製紙業においては、港の果たす役割は年々重要となっています。

そうした中で、三島川之江港においては、取扱貨物の増大やコンテナ化、更には船舶の大型化などに対応するため、多目的国際ターミナルの整備が続いています。そして本年3月には、その核となる水深14m岸壁の暫定供用が開始されることは、更なる地域経済の活性化につながるものであり、大いに期待しています。

これからの港の役割は、こうした地域経済の活性化に資することはもちろんですが、リサイクルポートにも指定されている三島川之江港においては、環境との調和を大切にし、市民が親しみをもって憩える場として活用を図りたいと思います。

こうした港やダム、そして道路は、どれも欠かすことのできない正に当市の財産です。現在、その恩恵を受けるものとして、これらの必要性を早くから認識した先人の先見の明と、その事業を成し遂げた努力に対し、心から感謝を申し上げたいと思います。そして私は、これらの財産を築いた先人の尊い教えに習い、次の世代へとバトンをつなぐ未来を見据えたまちづくりに取り組んで参りたいと思います。

三島川之江港



大型船舶がはっきりなしに着岸しています。



多目的国際ターミナルの完成に向け、工事が進んでいます。

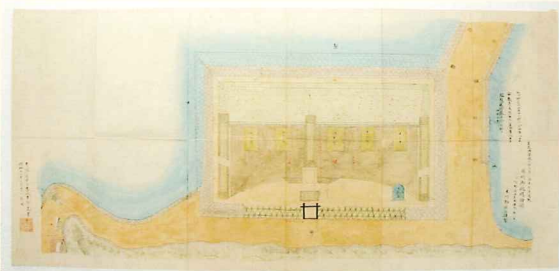




## ～幕末の四賢侯と称された伊達宗城の城下～ 宇和島市教育委員会文化課よりご紹介

### 伊達文化と宇和島のみなと

宇和島湾は、外海から九島<sup>くしま</sup>という島によって守られた内海的な天然の良港であり、旧宇和島藩伊達家十萬石の城下の港であった。幕末（慶応2年：1866）には駐日英国公使一行が乗船した黒船も入港した。宇和島藩は藩を挙げて公使一行を歓待し、イギリスと宇和島の友好の証として宇和島藩御船印<sup>おふなしるし</sup>（緋九耀紋旗）と公使搭乗のサラミス号に掲げられていた軍艦旗の交換をし合った。

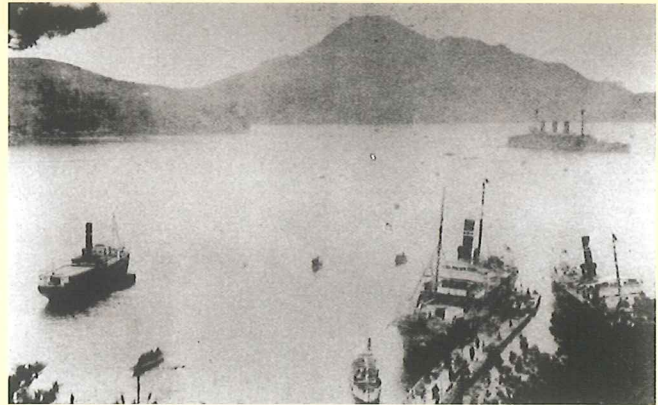


#### ▲榊崎御砲場絵図

安政2年（西暦1855年）3月から10ヶ月かけてつくられた。宇和島藩での2番目となる西洋式砲台。（財）宇和島伊達文化保存会蔵

#### ▼市指定史跡榊崎砲台跡

砲台は、宇和島湾の守りとして山を切り、海を埋めて構築して造られた。石垣の下が海であった。



#### ▲榊崎埠頭（大正頃）

宇和島港の外港として盛んに利用され栄えていた。天然の良港としてよく知られていたため、軍艦など各種船舶が寄港した。

写真は、住吉山からの榊崎沖の眺望。（写真提供 田部 司氏）

宇和島藩第八代藩主伊達宗城（むねなり、1818～1892）は幕末の四賢侯と称された。また、宗城は蘭癖大名としても有名であり、全国に先駆け薩摩藩に続き日本人の手になる2番目の蒸気船をつくらせた。

宇和島湾の入口の2箇所には、かつて港の守りとして西洋式の砲台がつくられていた。これは西洋式の砲台を藩内に築くため高野長英（1804～1850）に命じてはじめたことに起因している。

その後も宇和島は、愛媛県の南予地域における政治・経済の中心地であり、宇和島湾はその玄関口として大いに栄えた。



▲宇和島港全景写真（平成19年3月撮影）写真上に見える島が九島。天然の防波堤の役割をなしている。



## 所長挨拶

桜色のようなやわらかな風が、心地よさを感じさせる季節となりました。春は出会いと別れの季節。読者の皆さまも新生活のスタートを控えて、ほど良い緊張感と高揚感を抱いていらっしゃると思います。毎年必ず迎えるこの季節、私自身も心機一転の好機と捉えて、自分の周囲を見渡してみる心の余裕が必要であると感じております。

さて、私どもの事務所におきましても、平成19年度に実施してまいりました港湾空港関係の各事業の成果を確認し、その反省を踏まえて、新たな年度に向けて効率的な事業計画・執行を図る時期を迎えております。

平成19年度に実施した事業では、目に見える大きな成果として、7月に一部開放しました、「松山港海岸和気地区(堀江浜側)」の高潮対策整備事業や、先日、供用式を挙行致しました、「三島川之江港金子地区岸壁(水深14m)」の多目的国際ターミナル整備事業がございました。もちろん、この他にも多くの整備事業に取り組んでおり、国民の皆さまのニーズに応えるべく、微力ながら努力しているところです。

また、平成20年度におきましては、「松山港海岸和気地区」の全面供用を予定していることから、早期完成が図れるよう事業の整備促進を行ってまいりたいと考えています。

先ほど、「心の余裕が必要である」と述べさせて頂きました。私どもが取り組んでいる多くの事業の中に、国民の生活に突然現れる“災害”に対する社会基盤整備も含まれています。皆さまの尊い生命や財産を守る、防災機能を備えた施設を整備するためには、日々の心がけ、ひいては「心の余裕」が最も大切です。

来る新年度におきましても、春風のような穏やかな心の余裕を持ちつつ、私どもの仕事が国民の皆さまの生活につながっていることを意識して取り組んでまいりたいと思っております。また、本誌が、皆さまにとって心地よい風となるよう、より良い広報誌を目指してまいりたいと思っております。引き続き、ご鼻頁にご愛読下さいますようお願い致します。



国土交通省四国地方整備局  
松山港湾・空港整備事務所  
所長 岡林 昭夫

## 編集後記

先日、広報誌の表紙写真を撮影するため、双海にある菜の花畑へ。至る所に黄色のじゅうたんが広がり、春の訪れを感じさせるこの植物。別名、アブラナ(油菜)、ナタネ(菜種)とも呼ばれ、私たちの生活において、よく登場する植物です。大変丈夫で、荒地でも元気に花を咲かせ、最近では、バイオディーゼルの燃料としても注目されています。菜の花のように、私たちの仕事も、皆さんの生活を支えつつ、環境にも優しい土壌づくりができればと感じた1日でした。

企画調整課 東

## 一 事務所位置図 一



〒791-8058 松山市海岸通2426-1  
TEL 089-951-0161(代表) FAX 089-946-8010



〒799-0402 四国中央市三島紙屋町6-45 四国中央市港湾庁舎  
TEL 0896-24-1808(代表) FAX 0896-28-1036